

関経連は、東日本大震災からの復旧・復興を全力で応援します。

関西経済レポート

関西の各種指標をみると、生産は下降トレンドが反転し、足下増産の兆しを見せている。しかしながら、海外経済(特に中国経済)減速の影響などから中国向け輸出の落ち込みが大きく、その分生産の改善ペースは緩やかとなっている。消費・雇用も緩やかな改善の動きをみせている。先行きについては、円高修正・株高・経済対策などから景気回復への期待が大きいですが、足下の回復は期待に比して限定的となろう。

2013年3月29日



公益社団法人
関西経済連合会

APIR

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

※本レポート中の「近畿」「関西」の範囲は滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県。

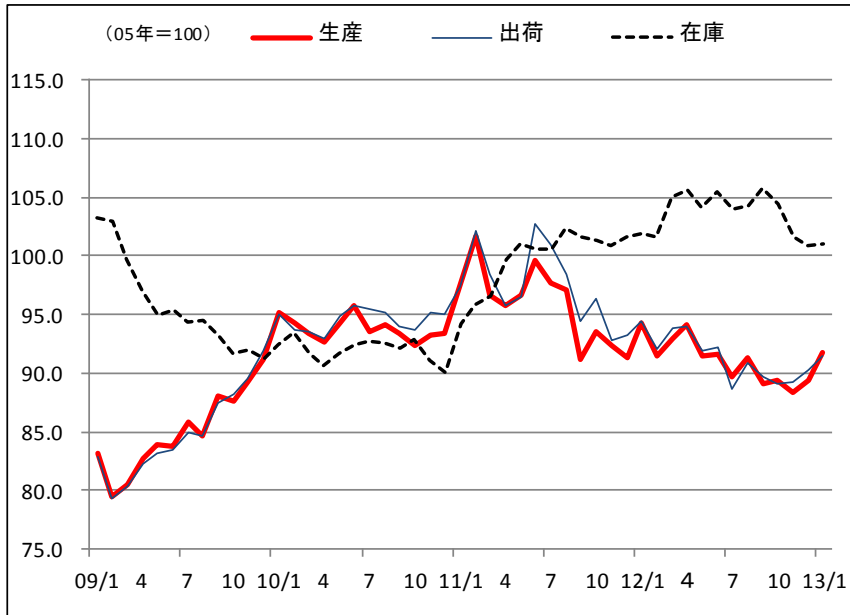
ただし鉱工業生産、大型小売店販売額については、福井県を含む2府5県。

～目次～

生産	1
輸出入	2
個人消費	3
雇用	4
中国經濟動向	5

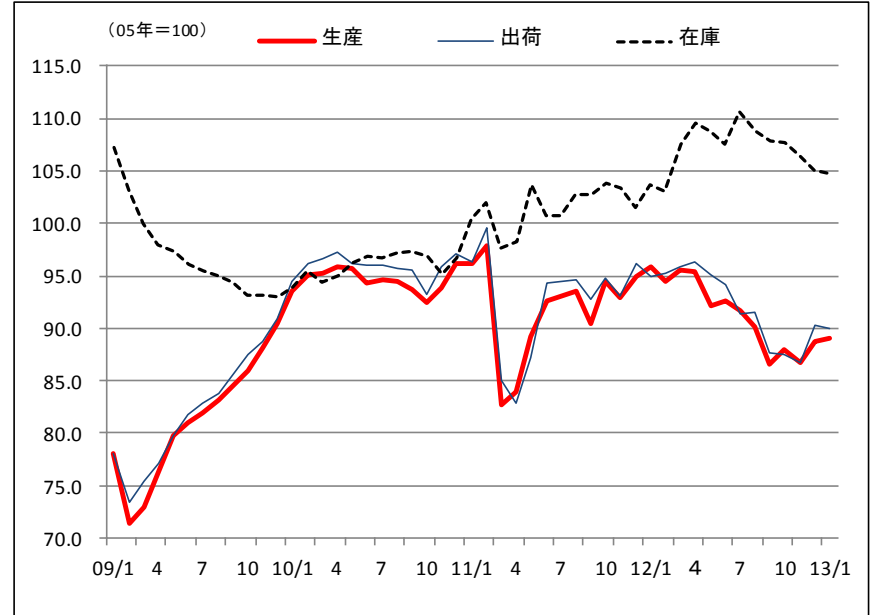
～生産～

鉱工業指数の推移（近畿・2013年1月まで）



（データ出所：「近畿経済の動向」（平成25年3月18日公表分）、近畿経済産業局）

鉱工業指数の推移（全国・2013年2月まで）



（データ出所：「鉱工業指数」（平成25年3月29日発表）、経済産業省）

- 近畿における1月の鉱工業生産指数（確報値、季節調整済）を見ると、生産は91.8で前月比+2.4%と2カ月連続の上昇。出荷は91.5で同+1.2%と3カ月連続の上昇。在庫は、101.1で同+0.02%とほぼ横ばい。業種別に見ると、精密機械工業による生産と出荷への貢献が顕著。

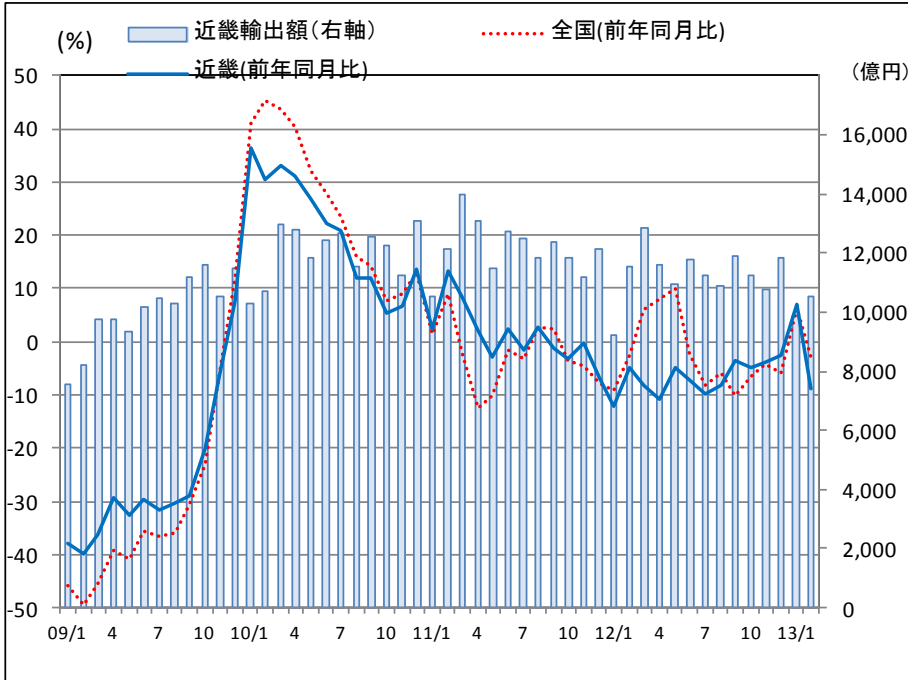
年間を通じて減少トレンドにあった昨年度と比べ、足下では生産と出荷が上昇に転じている。直近の在庫水準も横ばいに転じ、今後、持続的な上昇が期待される。

- 全国における2月（速報値、季節調整済）の鉱工業生産指数は、89.0で前月比-0.1%と3カ月ぶりのマイナス。出荷は90.7で同+0.7%、在庫は102.6で同-2.1%となった。生産の低下に寄与した業種は、電子部品・デバイス工業、精密機械工業、窯業・土石製品工業等。一方で、出荷の増加には、輸送機械工業、鉄鋼業、非鉄金属工業等が貢献。

近畿の動きと同様、生産と出荷の動きは上昇トレンドであるが、水準で見れば昨年度前半の水準には達していない。

～輸出入～

輸出金額・前年同月比増減率推移(2013年2月まで)

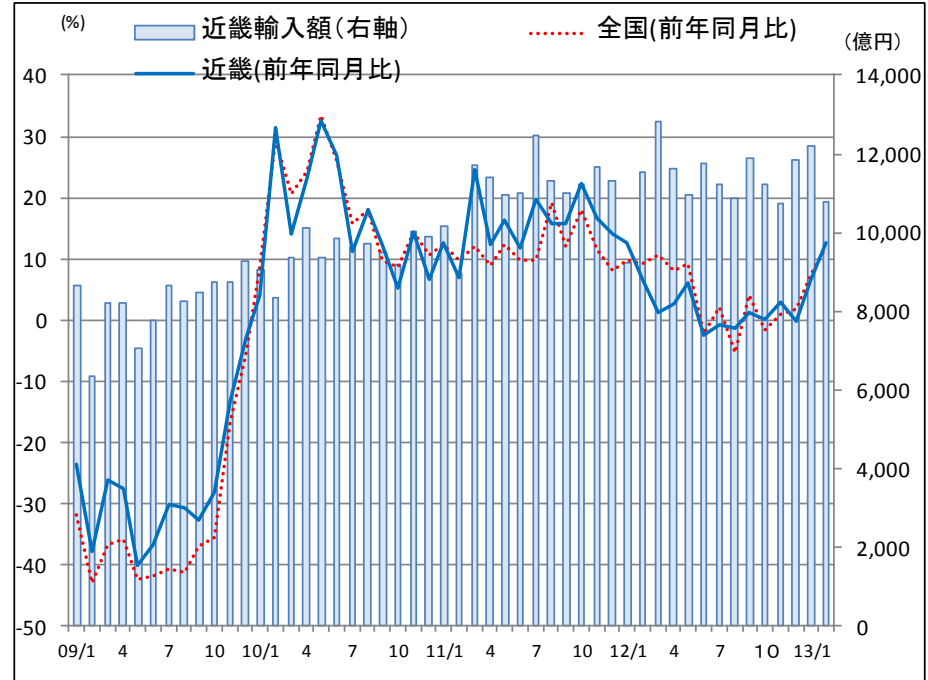


(データ出所: 「大阪税関貿易速報資料: 近畿圏」 (平成25年2月分 (速報値))、大阪税関調査統計課)

○近畿圏の輸出動向

- 近畿圏における2月の輸出額は1兆538億円、前年同月比-8.7%と2カ月ぶりの減少。(速報値)
- 有機化合物、電算機類の部分品、半導体等製造装置は増加も、一般機械、電気機器等が大幅減少。
- 地域別では、アジア(前年同月比-7.3%)、EU向け(同-8.8%)は軒並み減少。特に、中国(同-15.5%)の低下が顕著。米国(同+0.9%)は僅かに上昇。
- 全国における2月の輸出額は5兆2,841億円、前年同月比-2.9%と2カ月ぶりの減少。(速報値)

輸入金額・前年同月比増減率推移(2013年2月まで)



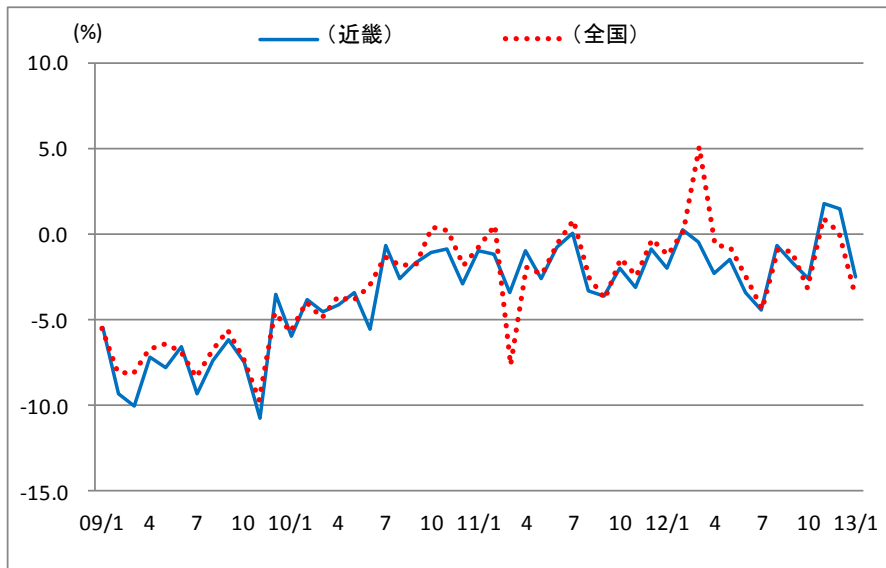
(データ出所: 「財務省貿易統計」 (平成25年2月分 (速報値))、財務省)

○近畿圏の輸入動向

- 近畿圏における2月の輸入額は1兆782億円、前年同月比+12.6%と2カ月連続の増加。(速報値)
- 衣類及び同附属品、原油及び粗油、電気機器等が増加。
- 地域別では、アジア(前年同月比+17.5%)、EU(同+7.2%)、米国(同+12.6%)、中国(同+23.2%)と、中国を中心に軒並み上昇。
- 全国における2月の輸入額は6兆615億円、前年同月比+11.9%と4カ月連続の増加。(速報値)

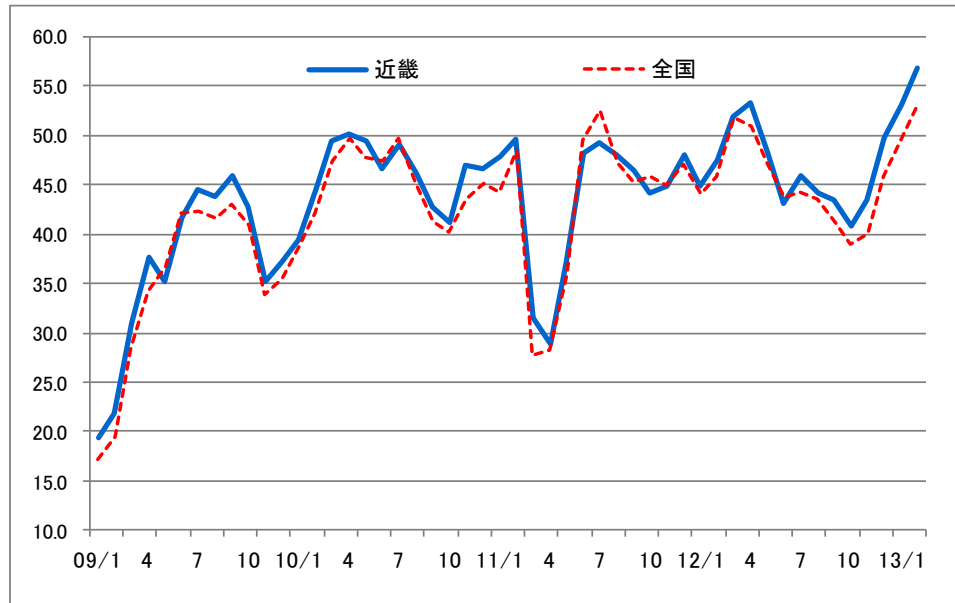
～個人消費～

大型小売店販売額（前年同月比・2013年1月まで）



(出所) 近畿経済産業局

景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2013年2月まで)



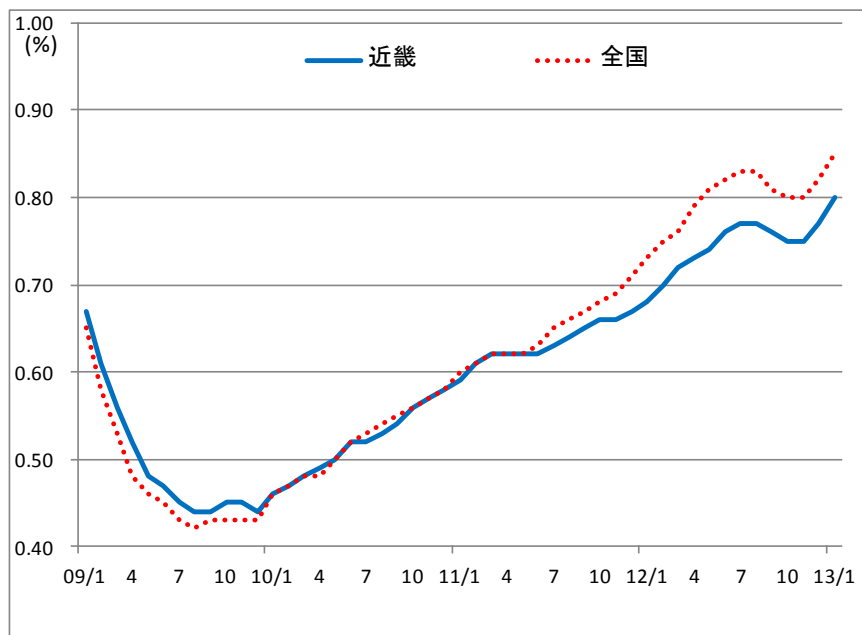
(出所) 内閣府

- ・近畿の1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比**-2.5%**と3カ月ぶりのマイナス。
- ・百貨店は同**+3.1%**と3カ月連続のプラス。
一部店舗の増床・リニューアル効果に加え、気温低下により、手袋、マフラーなどの防寒用品が好調に推移したものの、コートなどの冬物衣料の動きが鈍かったことからマイナスに。
- ・スーパーは同**-6.1%**と2カ月ぶりのマイナス。
- ・全国の1月の大型小売店販売額(既存店ベース)は同**-3.5%**2カ月ぶりのマイナス。

- ・近畿の現状判断DIは前月比**+3.6**ポイントの**56.8**と、4カ月連続の上昇。
株高から高額商品の売上げが好調だったほか、円安・株高を背景に自動車販売も好調だったことなどから上昇。
- ・全国の現状判断DIは同**+3.7**ポイントの**53.2**と、4カ月連続の上昇。
- ・近畿の先行き判断DIは同**+1.4**ポイントの**61.2**と、5カ月連続の上昇。
引き続き、経済対策、円高の緩和・株高に対する期待から上昇が見込まれる。
- ・全国の先行き判断DIは同**+1.2**ポイントの**57.7**と、4カ月連続の上昇。

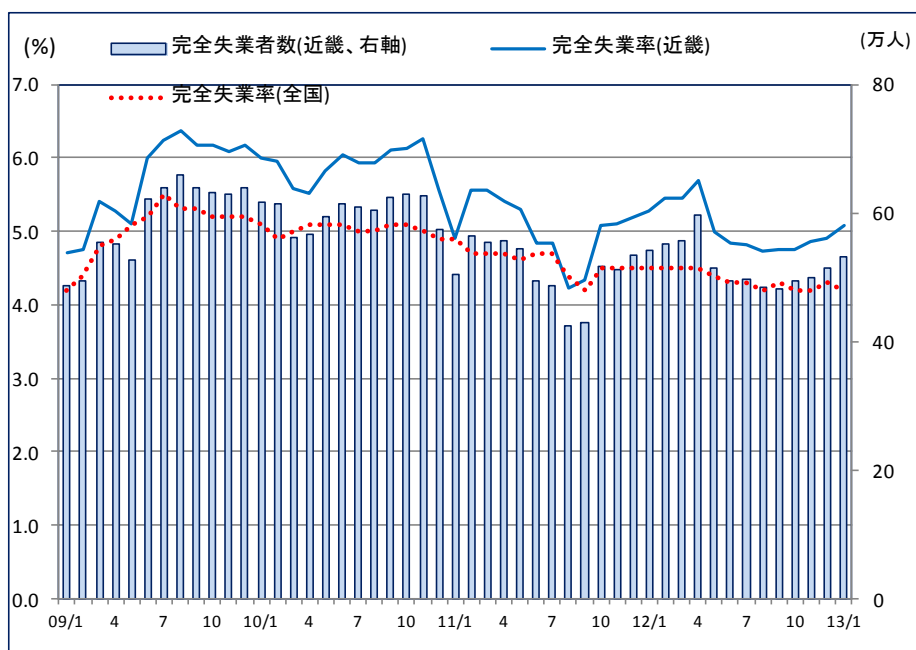
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2013年1月まで）



(出所) 厚生労働省

完全失業率の推移（季節調整値・2013年1月まで）



(出所) 総務省「労働調査」

地域別有効求人倍率2013年1月

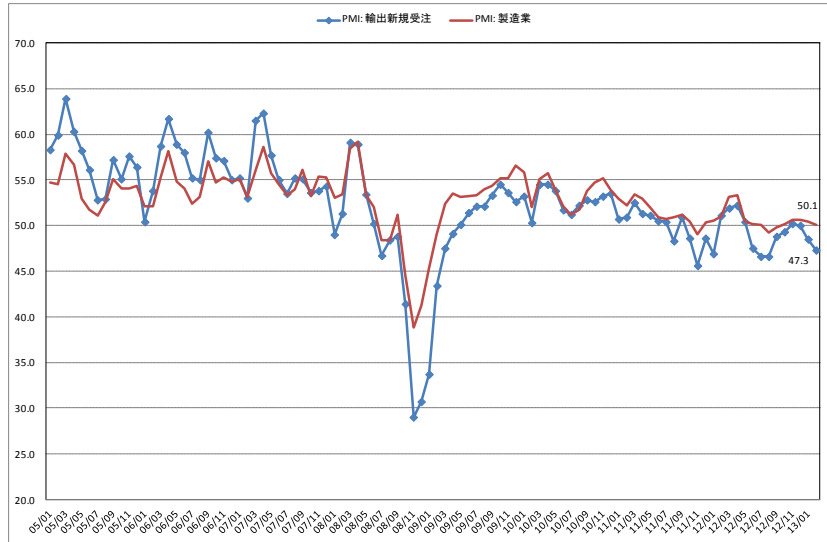
	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
1月	0.85	0.65	0.99	0.86	0.82	0.96	0.99	0.80	0.94	0.88	0.69
12月	0.82	0.64	0.93	0.83	0.79	0.93	0.94	0.77	0.93	0.86	0.67

- ・1月の近畿の有効求人倍率は**0.80**倍、前月から**0.03**ポイントの改善。
- ・生産の改善に伴い、足下の雇用は改善傾向にある。
- ・全国は**0.85**倍で、前月から**0.03**ポイントの改善。

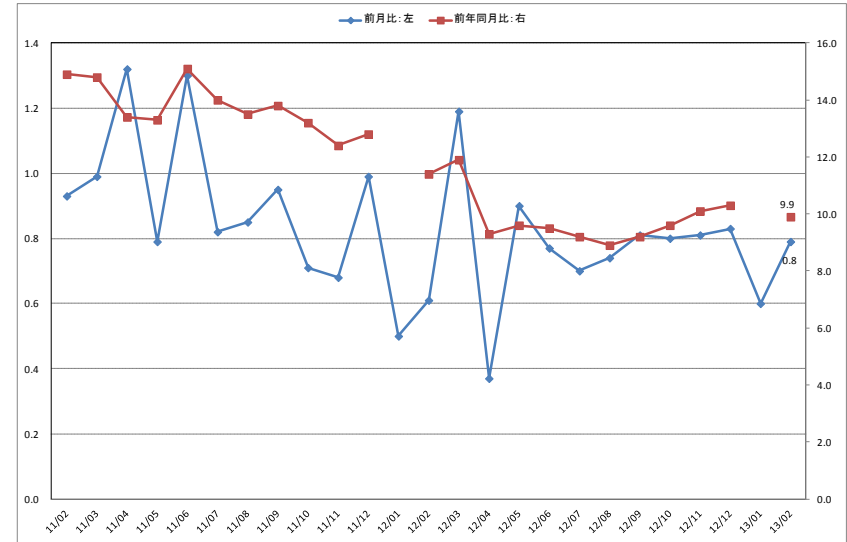
- ・1月の近畿の完全失業率（季節調整値、APIR推計）は**5.1%**と前月から**0.2**ポイントの悪化。
- ・1月の近畿の完全失業者数(季節調整値)は**53**万人。前月から**2**万人の増加。
- ・1月の全国の完全失業率（季節調整値）は**4.2%**、前月から**+0.1**ポイントと**2**カ月ぶりに改善。
- ・全国と比べれば、近畿の労働市場の改善は緩やか。

～中国経済動向～

中国購買担当者景況指数
製造業と新規輸出受注 (2013年2月まで)



中国工業生産の動向 前年同月比と前月比 (2013年2月まで)



- 2月の製造業PMI(購買担当者景況指数: 季節調整値)は**50.1%**で、直近5カ月で最低水準。春節による影響と指摘されているが、昨年2月(春節)PMIの**51.0%**と比較しても低い。
- 特に新規輸出受注PMIは**47.3%**となり、直近7カ月で最低水準となり、輸出の低迷が心配される。

- 工業生産の前月比は、1月に一時+**0.60%**まで低下したが、2月に+**0.79%**に回復している。
- しかし、前年同月比で見れば、1～2月(合計)は+**9.9%**となった。昨年8月に低下トレンドは底を打ったものの、回復力が弱いと見られる。
- 関西の対中輸出にも影響を及ぼしていると考えられ、注意する必要がある。